

2

人間ドック

1 調査目的

がん検診における発見がん患者の精密検査結果の詳細を把握することにより、検診の評価を行い、精度管理の維持・向上を図る。

2 調査対象

平成29年度の人間ドックにおける胃・肺・大腸・子宮・乳・前立腺等の各がん検診受診者のうち、精密検査結果が「がん」または「がん疑い」と報告のあった者。

3 調査内容

調査内容は、当事業団が実施した胃・肺・大腸・子宮・乳・前立腺等の各がん検診における発見がん患者の精密検査結果および治療状況等とし、各がん取り扱い規約に基づいた内容について更なる詳細結果（報告）を求めた。

1] 取得方法

調査依頼先に対象者の発見がん追跡調査票を書留にて郵送し、回収した。

2] 調査依頼先

対象者の精密検査結果報告が提供された医療機関、または紹介先医療機関

3] 調査期間

初回調査：平成30年9月～10月

再調査：平成30年11月～12月

再調査は、以下の場合に実施

- (1) 初回調査の結果、転院が判明した者
- (2) 初回調査後、新たに精密検査結果が「がん」または「がん疑い」で戻ってきた者

平成29年度 人間ドックにおける発見がん追跡調査結果

平成31年1月31日現在

1 がん検診別発見がん追跡調査結果

	胃がん		肺がん*			大腸がん	子宮頸がん
	X線	内視鏡	X線	CT	喀痰		
受診者数	7,692	2,648	10,345	913	1364	11,215	3,007
要精検者数	533	99	155	6	2	444	96
要精検率(%)	(6.9)	(3.7)	(1.5)	(0.7)	(0.1)	(4.0)	(3.2)
精検受診者数	401	62	131	6	2	297	75
精検受診率(%)	(75.2)	(62.6)	(84.5)	(100.0)	(100.0)	(66.9)	(78.1)
追跡調査数	6	3	4	2	1	8	0
追跡調査回収数	6	3	4	2	1	7	-
追跡調査回収率(%)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(87.5)	(-)
発見がん数**	4	3	2	1	1	7	0
がん発見率(%)	(0.05)	(0.11)	(0.02)	(0.10)	(50.0)	(0.06)	(0.00)
早期がん数	4	2	0	1	0	2	-
早期がん割合(%)	(100.0)	(66.6)	(0.0)	(100.0)	(0.0)	(28.5)	(-)
陽性反応適中度(%)	(0.8)	(3.0)	(1.3)	(16.7)	(0.1)	(1.6)	(0.0)

* 最終読影の結果がん以外で要精検となった者を除く

** 発見がん追跡調査前にかんと判明し、かつその詳細結果を把握できた者も含む

	子宮体がん	乳がん	前立腺がん	腹部超音波	食道がん	甲状腺がん
受診者数	217	3,547	1,864	11,624	10,340	486
要精検者数	1	189	78	179	632	12
要精検率(%)	(0.5)	(5.3)	(4.2)	(1.5)	(6.1)	(2.5)
精検受診者数	1	161	57	127	463	11
精検受診率(%)	(100.0)	(85.2)	(73.1)	(70.9)	(73.3)	(91.6)
追跡調査数	6	11	21	4	1	1
追跡調査回収数	5	11	19	4	1	1
追跡調査回収率(%)	(83.3)	(100.0)	(90.4)	(100.0)	(100.0)	(100.0)
発見がん数**	1	8	9	2	1	0
がん発見率(%)	(0.46)	(0.22)	(0.48)	(0.02)	(0.01)	(0.00)
早期がん数	- ****	4	8	-	0	0
早期がん割合(%)	(-)**	(50.0)	(88.8)	(-)	(0.0)	(-)
陽性反応適中度(%)	(100.0)	(4.2)	(11.5)	(-)	(0.2)	(-)

*** 腹部超音波については、早期がん数、早期がん割合、及び陽性反応の適度は算出せず。

**** 子宮体がんについては、早期がんの定義がないため、早期がん数、早期がん割合は算出せず。

(参考) がん検診に関する事業評価指標と許容値及び目標値

(がん検診の事業評価に関する委員会報告書より)

		胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん
精 検 受 診 率	許容値	70%以上	70%以上	70%以上	70%以上	80%以上
	目標値	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
要 精 検 率	許容値	11.0%以下	3.0%以下	7.0%以下	1.4%以下	11.0%以下
が ん 発 見 率	許容値	0.11%以上	0.03%以上	0.13%以上	0.05%以上	0.23%以上
陽性反応適中度	許容値	1.0%以上	1.3%以上	1.9%以上	4.0%以上	2.5%以上

2 まとめ

平成29年度の各がん検診精検受診率は、前年度の値と横ばいであった。その中で、大腸がん検診の精検受診率については前年より6.2%上昇し66.9%となったが、例年同様各がん検診の中でも低く、がん検診の事業評価に関する委員会報告書に示されているがん検診精検受診率の許容値を満たしていなかった。大腸がん検診の精検受診率向上のため、平成27年度より、ドック当日受診勧奨や受診希望の医療機関名を記載した紹介状の発行等を実践してきたが、頭打ちの現状である。大腸がん検診については、平成26年に新たにがんと診断された男女計患者数において大腸がんが胃がんを上回り第1位になった（平成30年9月発表；国立がん研究センター）ことから、精検受診率向上に向けた新たな対策の検討が必要と考える。

また、精検受診率が胃がん検診（X線検査）75.2%、子宮頸がん検診78.1%であり、例年許容値は満たしているものの80%に至っていない。胃がん検診（内視鏡検査）は昨年より9.3%低下し62.6%と低かった。胃がん検診（X線検査）や子宮頸がん検診は、ドック当日に結果が出ないため当日の受診勧奨をしていないことも一因と考えられるが、内視鏡検査は受診者が医師と直接質疑応答できる環境にある。精検受診率向上のため、受診率が伸び悩む個々の背景の把握やそれぞれに応じた対策の検討が必要と考える。